

情報共有

4/22 AM本店レクメモ

H23.4.22①議事メモ rev0.doc Last printed 4/22/2011 3:28:00 PM

(非管理文)

(3枚)

プラント状況（本店レク）議事メモ

22 金

日時：平成23年4月22日（金）11:15～12:00

場所：東京電力本館101A B会議室

先方：記者約40名（カメラ7台）

当方：原子力設備管理部

本店広報部

配布資料：

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて【4月22日 午前9時現在】
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 等
- ・ 福島第一原子力発電所4号機 使用済燃料プール水位の詳細調査について
- ・ 飛散防止剤散布実績（4/1～4/21）と予定（4/22）について

質疑：

Q. なぜ4号機燃料プールの水位調査をすることになったのか。何かトラブル等が確認されたのか。

A. 4/12にサンプリング分析を実施し、その後、水位を確認したくその準備が整ったため実施することにした。

Q. 熱電対で水位を測ると言ふことか。

A. ある程度の目安として測定できればと考えている。

Q. Jビレッジの取材は可能か。

A. 確認させていただく。

Q. 2号機たまり水の変化と集中廃棄物処理施設への移送量はどのくらいか。

A. 本日7:00時点では約690m³と推定している。集中廃棄物処理施設の水位は初期値から390mm上昇している。（4/21・18:00から61mm上昇）

タービン建屋の水位はO.P.+3100mmから変化なし。トレーンチは累計で5cm下がっている。

Q. 移送の速度を速める予定はあるのか。

A. 現時点ではない。

Q. 広報が統合本部で一本化されるとの話があるが事実関係は。

A. 調整中なのでとりまとまり次第お知らせしてまいりたい。

Q. 今回の4号機使用済燃料プールにおける調査は、前回と比較して水位測定が加わったということか。

A. 水位測定とあわせてサンプリングも行う。

Q. 水位がすぐにわかるのか。

A. 早ければ本日中に確認できるかもしれないが確認したい。

Q. 水中カメラで燃料の状況も確認するのか。

A. 本日実施するか、明日以降になるかわからないが、水中カメラを取り付ける予定。

Q. 水面から燃料集合体まではどのくらいの距離があるのか。

A. 前回の調査時は数メートルと聞いている。その後、注水をしているので増加していると想定している。

Q. 社長が福島に行き、知事からは「再開を認めない」との発言があったとのことだが、2Fも含めて再開を認めないと言うことか。

A. 確認できていないのでコメントは申し上げられない。

Q. 知事とのやりとりについて公表の予定はあるのか。

A. 特段、紙面による公表などは予定していない。

Q. 使用済燃料プールの調査にあたって、放水しながら水位の測定を実施するのか。

A. 本日は放水はしないで準備を進める。明日から注水をしながら水位の変化等を確認していく予定。

Q. 水中カメラの耐熱温度は。

A. 確認させていただく。

Q. 4号機の水位確認は次の何かの作業を実施する前の事前確認を目的としているのか。

A. まずは注水の精度をあげるために水位を確認するもの。

Q. 今回の調査はNRCのヤツコ委員長の助言があつて実施するものか。

A. 使用済燃料プールの水位の調査をすることを目的としている。

Q. 瓦礫撤去の実績は。

A. 4/21 時点でコンテナ 40 個。

Q. 瓦礫を撤去することでどういう作業が可能となるのか。

A. 線量が高い瓦礫を除けば作業がしやすく、長時間の作業が可能となる。また、車両が入りやすくなり、大型機材の搬入が可能となる。

Q. 4号機使用済燃料プール内は水中カメラでどの程度まで見えると考えているのか。

A. 使用済燃料の状態まで確認したいと考えている。

Q. 3号機のたまり水は集中廃棄物処理施設に移送しないで直接浄化処理するのか。

A. 現時点では集中廃棄物処理施設への移送について、増加量を管理しながら検討し

てまいりたい。

Q. コンテナで回収した瓦礫の処理の仕方は。

A. 処理して埋設することになると思う。

Q. 処分予定地は。

A. まだ決まっていない。

Q. 瓦礫撤去後の線量の変化はどのくらいか。

A. お示しできるよう検討させていただく。

Q. 飛散防止剤はいつまで散布する予定か。

A. 試験散布は4月末頃までを予定しており、あわせて評価する予定。その後、量や面積を広げて本格散布する予定。

Q. 4号機タービン建屋地下水が増えていると思うが何らかの影響はないのか。

A. 詳細は確認できていないが、使用済燃料プールの耐震上の補強として支えをつける予定。現時点では影響はないと考えている。

Q. 行程表を公表後、一般のお客さまからの反応に変化はあったのか。無言電話等が増えたりしているのではないか。

A. 確認させていただく。

Q. 工程表について、十分でないと海外から評価されているが社長としてコメントはないのか。

A. 頂からさせていただく。

Q. 集中廃棄物処理施設への移送量として初期値から 390mm とのことだが、面積からどのくらいの量になると算出しているのか。

A. 堀の体積等もあるので、現時点で確認できていない。

Q. 2号機のたまり水はどの程度まで移送する予定か。

A. 約1万トンを移送予定で、集中廃棄物処理施設の水位は1m程度になると予想している。

以 上

情報共有

非常理事會
(6枚)

会見議事録

日 時：4月22日（金） 18:30～19:50

場 所：本店3階ABC会議室

記者数：約60名、カメラ9台

会見者：原子力・立地本部 [REDACTED]

原子力設備管理部 [REDACTED]

原子力運営管理部 [REDACTED]

広報部 [REDACTED]

配付資料：

- ・福島第一原子力発電所の状況
- ・東北地方太平洋沖地震による影響などについて（4月22日 午後4時現在）
- ・福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について（第三十報）
- ・福島第一原子力発電所2号機取水口付近からの放射性物質を含む液体への流出について（続報18）
- ・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について（第二十八報）
- ・福島第一原子力発電所構内における土壌中の放射性物質核種分析の結果について（続報4）
- ・福島第一原子力発電所プラント関連パラメータ
- ・福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況 他

質疑

Q. 4号機の使用済燃料プール水は、91度で水面から燃料上部まで2メートル程度であったとのことだが12日のサンプリング調査時と変わっていないのはなぜか。

A. 約140トン/日の放水量は使用済燃料からの発熱量と同じ程度の熱量なので、プール水量が減っていないと言うことは予定通りプール内に放水されていると言える。

Q. 使用済燃料プールの温度が下がらないのはどういうことか。

A. 現在の放水量は蒸発量に見合った量なので、もう少し大量の水を入れれば下がると思うが、現時点では見合った量のみを放水している。

Q. 使用済燃料プールの調査において水中仕様のカメラに変更する予定はないのか。

A. 今回使用しているカメラは水中仕様であるが50度の耐熱仕様のため、91度の温水については耐えられない。水面付近で水位や線量などを確認するためのカメラとして用いている。

Q. 3号機の使用済燃料プールにおいて、淡水の試験注入を実施したことだが具体的に教えていただきたい。

A. コンクリートポンプ車からの放水ではなく、本設の使用済燃料プール浄化系の配管から淡水を注入できるか確認したもの。

Q. 3号機の試験注水について、どの程度の量を注入したのか。

A. 量は確認出来ていないが、コンクリートポンプ車の上からカメラで確認したところ限りでは水面の上昇が確認出来たのでしっかりと注水されていると思われる。

Q. 1号機の窒素を10000m³入れたとのことだが、格納容器の容積はどの程度あるのか。

A. 1号機については約3410m³。当初6000m³入れる予定だったが、190kpa以上に圧力があがらないので窒素が抜けていると想定し、現時点でも注入し続けている。

Q. 瓦礫の撤去について、1号機大物搬入口付近というのは原子炉建屋周辺と言うことか。

A. 1号機大物搬入口は原子炉建屋周辺である。

Q. 2, 3号機の窒素注入の準備状況は。また、現時点で実施していない理由は。

A. 2, 3号機の窒素注入の準備状況は確認する。また、格納容器のリーク対策がまだ不十分であるため、どういう形で封入すべきか手順等を検討している段階。

Q. 双葉町長との会談はいつ決まったのか。また、現地でのスケジュールを教えていただきたい。

A. 20:30頃加須市に到着し、双葉町長にお会いする予定。夜分遅いことから避難所巡りはせず、帰宅予定。従来から立地4町にご訪問させていただく予

定であり、夕刻になって双葉町長と調整がついた次第。

Q. 2, 3号機の窒素注入は4月中に実施したいと武藤副社長は言っていたが、いつ頃になるか。

A. いつ頃になるかは現時点未定。

Q. 2, 3号機の窒素注入が始まらないのは1号機が実施しているから実施できないのか。

A. 号機ごとに別々の系統・装置となっているので、特段関係ない。

Q. 馬淵首相補佐官が敷地の外に地下水が出て行かないための対策を実施するとのことだったが、どのくらいの範囲をどのようにいつ頃から実施していくのか教えていただきたい。

A. 確認させていただく。

Q. プルトニウムの分析結果は特段変化はないということで良いか。

A. 特段顕著な増加傾向はない結果となっている。

Q. 4号機の使用済燃料プールの水の線量データは確認できているのか。

A. 雨が降っていたため、正確に読めていないが、4/12の調査時と変わらないのではないかと考えている。

Q. ウランの検出量が天然由来のものとのことだが事故には関係ないものといえるのか。

A. 分析結果では、天然に存在する量、割合となっているので、原子炉の中から出てきたものではないと考えている。誤差の範囲内の物は入っている可能性もあるが、基本的には天然由来の量を超えるものではない。

Q. 2号機ピットからの核種分析において、一部濃度が上昇しているが、どのような影響が考えられるのか。もしくは誤差の範囲か。

A. 取水口付近からの海への流出について、本データのみで影響を考えるのは難しいが、シルトフェンス内側のデータはほぼ横ばいになっているので、新たに高濃度の汚染水が流出しているような状況ではないと考えている。

Q. メガフロートや仮設タンクの設置状況は。

A. まだ横浜港を出港していない、4月中に点検を終了し、5月半ばに発電所

の港に係留できる予定。また、当初集中廃棄物処理施設脇に設置した仮設タンクは既に5, 6号機側に移動している。汚染水を移送するとなつたらお知らせしてまいりたい。

Q. 夏場の電力供給の見通しについて教えていただきたい。

A. 計画停電は原則実施しない計画なので引き続き努力してまいりたい。

Q. 工程表に基づき、現状、何割程度進んだのか教えていただきたい。

A. まだ評価できていない。いずれにせよ、3ヶ月、6~9か月という工程内で実施してまいりたい。

Q. 工程表の作成に携わった期間を教えていただきたい。

A. 原子炉や使用済燃料プールへの注水が出来るようになってから検討を始めている。

Q. 工程表の作成に当たって反対意見はあったのか。

A. 作成に当たって、特段反対するというものはなかった。内部で必要であると考えていた。

Q. 4月25日から東電や保安院が会見の一元化を行うことだが、経緯を含めて教えてほしい。

A. 現在調整中である。経緯は、統合本部として会見をすべきとの意見を踏まえて検討、調整しているもの。

Q. 会見の開催回数が減るようなことがあるのか。

A. 現在調整中である。

Q. 一元化した結果、同じ部屋で事業者と規制側が続けて会見を行うことで、透明性を損なうのではないかといった危惧もあるが。

A. そういうご意見があることも承知しているが、仮に一元化されたとしても、事業者として説明する機会はきちんと設けていきたい。

Q. 一元化されてもリストラや経営問題等についてきちんと説明するのか。

A. 仮に一元化されたとしても、経営に関わる話についても、然るべきタイミングで、然るべき者がお話ししさせていただく。

Q. 現在、東電と保安院が食い違う内容を会見で発言することもあるが、食い違う発言が元で明らかになることもあるのではないか。

A. 事業者と規制側の事実に対する認識については、解釈の相違が多少ある場合もあるのではないか。いずれにしても、それぞれの立場で回答させていただき、必要に応じて確認をさせていただくなど、相違があればきちんとご説明させていただく。

Q. 会見を一元化する場合、福島での会見も取りやめるのか。

A. 現地での対応に変更はないと思っている。

Q. 4号機燃料プールの放射線量の測定結果は。

A. 降雨により測定値がカメラで確認できなかつた。

Q. 1号機のD/WとS/Cの圧力がほぼ同じだが、どう見るか。

A. D/Wには水が少しずつたまっていることから、S/Cはほぼ満水であると考えている。

Q. 窒素注入後、格納容器圧力は上昇後に下降し、現在では注入前とほとんど同じ圧力になったが、窒素は注入できていると考えていいか。注入量に変更はあるか。

A. 窒素の入れ替えはできたと考えている。注入量に変更はなく、28m³/hでの注入を継続している。

Q. 2, 3号機への窒素注入は、どうすれば窒素注入入れられると思うか。

A. 3号機は建屋の上部が吹き飛んだ関係で周辺に瓦礫があり、瓦礫を除去して窒素封入に必要な配管部を探している状況。

窒素注入は内部の配管の弁をどのようにして開けるかについて検討しているところ。

Q. 国産のロボットが導入されるとの報道があったが、どうか。

A. 国産の災害救助ロボットのクインスが、千葉工大にあることは認識しており、情報提供をいただいているが、実際に導入するかどうかは検討中。

Q. 1号機の格納容器内に水が増えてきた場合の健全性についてどのようにチェックしているか。また、5, 6号機のサブドレンのサンプリング状況はどうか。

A. タービン建屋のたまり水の水位を監視しているが、水位上昇がみられないことから、現時点では原子炉建屋側からタービン建屋側への漏水はないと考えている。

今後、格納容器内に水がたまつてくるが、健全性には問題ないと考えている。なお気密性は完全ではないことから、一部漏洩箇所もあると思うが、建屋内部に入ることができないので、詳細な確認がまだできていない。従って、注水をしながら確認していくことになるのではないか。

5, 6号機側のサブドレンについては各種分析を行っているので、結果を公表させていただけると思う。

Q. 集中R/W周辺のサンプリングはどうか。

A. 毎日サンプリングしており、準備ができ次第公表させていただく。

Q. 週単位の進捗状況を示していただきたい。

A. 現時点では週単位の進捗として具体的にお示しする工事内容等はない。

Q. 1週間の予定はいつ頃になればできるのか。

A. 録意努力をしている段階。取り組みについてお知らせできる段階でお知らせしていく。

Q. 工程表の公表から1週間経過したことから最初の1週間で何ができたかについてとりまとめて公表していただきたい。

A. ロボットや窒素封入など、これまで実施してきている作業はあるものの、例えば再循環型の冷却への移行などについては、まだ詰まっていない。

Q. 1号機S/Cは満水といっているが、何を根拠に言っているのか。

A. 窒素封入を開始した段階で、圧力の上がり方で判断した。

Q. 圧力抑制室の体積などの程度か。

A. 確認させていただく。

以 上